

2014年ブロンテ・デイ公開講座

ブロンテ姉妹文学は、彼女たちの父親が1826年6月5日リーズから買ってきてくれた12体の木製兵隊人形から出発しました。この6月5日に近い6月の第1日曜日を日本ブロンテ協会は、本国イギリスの協会と歩調をあわせブロンテ・デイとし、専門家のみならず一般愛好者も集い、ブロンテ文学を愉しみ、味わうことにしています。

本講座はその行事の一つであり、ブロンテ愛好者であれば十分愉しめる講座となっております。

14:00～15:05：「ブロンテとウィリアム・クーパー」

講師：田村真奈美（日本大学 教授）

18世紀の詩人ウィリアム・クーパー(1731-1800)はブロンテ家の人々が愛誦した詩人の一人です。田園生活を賛美しロマン派詩人の先駆けとも言われるクーパーは、賛美歌の詩も多く手がけた福音派詩人という側面も持ちます。クーパーの詩のどんなところにブロンテたちは惹かれたのかを考えることで、ブロンテ文学の源の一端を探ってみたいと思います。

15:10～16:15：「火をつける女性たち」

講師：服部慶子（大阪大谷大学 教授）

「火をつける」という極めて扇情的な行動を行う女性が『ジェイン・エア』と『レベッカ』に登場します。これは狂気と関連したエピソードであり、笑いながら屋敷に火をつけ転落死したバーサ（『ジェイン・エア』）や、大邸宅に火をつけて回るダンヴァーズ夫人（『レベッカ』）の姿は、読者の心に鮮明に残り、戦慄の恐怖感を覚えずにはおられません。本講演では、そのような「火をつける女性たち」にスポットライトを当てて、その鮮烈さの意味を「狂気」「犯罪心理学」などの観点から分析を行います。